

家庭科の男女共修をすすめる会

# 会報

'85 秋

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11  
婦人会館内

〒151

振替 東京九一―一九一八九一

発行 一九八五年一〇月五日

## 豊かな明日を！

樋口恵子

このところのニュースで「ああ、私の恐れていたものがやってきた」と思い当たるものがある。それは、寝たきりの妻を殺した老いた夫の事件が散見されることだ。逆に寝たきりの夫を、妻が看病疲れで殺すという例はほとんどない。体力は女のほうがないというのに。男性が身辺の自立能立がないこと、そして適切な助けを求めることを含めて、他者と

の人間関係をつくる能力が欠けていること、そのツケが寝たきりのまま夫に殺される妻である。

女子差別撤廃条約の批准で、家庭科の男女共修をすすめる運動は新段階を迎えた。どんなすすむ高齢化とのかかわりさえ見えず時間かせぎの文部省。家庭科の男女必修なしに豊かな明日はない。

### 集会のおしらせ

二〇〇年に向けての私たちの戦略  
～新教課審に求める～  
十月十九日(土) 午後一時半～四時半  
婦人会館で(☎三七〇・〇二三八)  
報告者 有馬真喜子さん ほか  
ナイロビの世界婦人会議で「二〇〇〇

年に向けての将来戦略」が採択された直後新しい教育課程審議会ができました。世界婦人会議についての有馬さんの報告、NGOフォーラムについての参加者の報告を聞くとともに、共修実現へ向けての私たちの戦略を考えましょう！

### もくじ

豊かな明日を／	(1)
集会のおしらせ	(1)
NGOフォーラム報告	(2)
ナイロビでのアンケート結果	(5)
旅で見たこと聞いたこと	(6)
ケニア、イタリア、ドイツ	
授業参観報告	(9)
NHKおはようジャーナルで	(11)
差別撤廃条約の訳文が変りました	(11)
臨教審と女性民教審	(12)
世話人会報告	(14)
一九八五年をふり返る会	(14)
国会から	(15)
衆院文教・外務連合審査委員会	
衆院文教委員会	
しつこい！ 校長会	(16)
いろいろな集会から	(17)
フェミニスト会議、家教連、We	
新しい家庭科を考える・大学婦人協会	(18)
連絡会報告	(19)
新教育課程の審議始まる！	(20)
日本大会に参加しましょう	(20)

## NGOフォーラム報告

参加者一万三千人、十日間にわたるナイロビのNGOフォーラムは、全体像を捉えにくい大集会でした。参加者がナイロビ大学の教室などを借りて自主的に発表や討論を行うというかたちで、会からの参加者は二つのワークショップで家庭科共修運動について発表するとともに、いろいろなワークショップに参加しました。また、共修運動を説明するリーフレットを配り、アンケートをとりました。

### 共修をすすめる会の発表

△七月十七日▽

研究者のグループIW C85のメンバーとしてNGOフォーラムに参加した共修をすすめる会会員は、七月十七日、一時間のワークショップを開いた。

前日決ったために、当日早朝、ポスターを作り、大学構内に貼り、呼びかけました。参加者は、二十五名ぐらいあった。

大学婦人協会の今井先生が、司会をしてくだされた。

十年間の運動の経過、男女共修についての

意識、その他を内容にしたリーフレットの説明を和田さん、コメントを藤本、本橋、持田が受け持った。

ケニアの女教師から次のような発言があった。

◆去年から技術、家庭をやるようになったが、道具や設備の不足で思うようにやれない。

◆男女共修で中等教育前期でやっている。

◆男の子が家庭科を文化として習うことは認めるが、家事を男がやるのは反対という人が多い。

◆本年度から次のような学校制度になった。

三〇四才―幼稚園(ナイロビの三〇名の子だけしか行かない)。

四〇五才―小学校前学校。

六才から初等教育(小学校)八年間(義務教育)。

中等教育(前期二年「技術、家庭」がある。後期二年)。

高等教育(四年―専門学校、各種学校、四年制高等学校などに分かれる。この上に大学)。

◆男が家事をやらないことに対して、男性からの発言―反対だ、二人で家事をやった、余った時間をディスカッションした方がいいが、そうなるまでには、時間がかかりそう―とのことであった。

持田 ナミ

△七月十八日▽

「国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会」の人たちが開いたワークショップ、日本の女性解放運動・現在と将来は、の中で、「家庭科の男女共修をすすめる会」として発表する場を得た。

このワークショップは「行動を起こす会」の発足以来十年間に取り組んだ活動の中から、労働・教育・マスメディアの三分野について報告するという形をとることになった。その中で教育分野に於いては、冊子「男子共修をすすめるために」「女はこうして作られる」「つばさをもがれた女の子」を出版したり、家庭科の男女共修問題と取り組んできたが、時間の関係で教科書の中に見る男女差別と、家庭科の男女共修運動の取り組みについて発表することとなり、後者についてはメンバーに双方とも会員である者も多いことであり、この件に関しては当会の方がより多くの活動をしているので「男女共修をすすめる会」として発表することになった。準備会では単に国内問題として扱わず、国際的な視点から発言しようということになり、梶谷・伊藤両世話人が中心となって準備、当日に臨んだ。

ワークショップはナイロビ大のメイン会場から離れたところの部屋を割り当てられたにもかかわらず、ほぼ満席となり、内外のテレビ

ビ局や報道関係者の姿も見られ、大変嬉しい状況であった。

報告の主な点を手短かに拾ってみると、教育は男女平等をすすめるためには重要な役割を果たすこと。日本の女子のみの家庭科は男女の伝統的な役割を実際に強化してきたこと。その結果、生活の重要性を考えずに行動する男達を作り、公害や貿易摩擦を起こしていること。このような状態を良くする為に始めた私達の運動は、ついに政府を動かして家庭科を学ぶ機会を男女平等にすることに成功したこと。この成果は国連婦人の十年によって一般の人の関心が高まったことや差別撤廃条約の批准ということが大きく寄与していること等をあげ、男女平等をすすめるためには国際的な運動と、各国の具体的な運動とが同時にすすめられる必要があると訴えました。

自由討論の中で教育分野では、教科書会社へ抗議行動をおこした結果、少しづつさし絵や文が変って来たという報告に対して、日本人から「女が子供の教育を分担しているのだから、家庭で女がしっかり男児にも教育すればいいではないか」といった発言があり、一同驚いたり、「女が担っている家事労働は大切なものであるから、GNPに加えて欲しい」という運動をしているが、日本でもやらないか」という外国人からの呼びかけがあったり

して、伝統的な役割分担を変えようということの人権思想に基づいた大運動ではあっても、目標迄の道のりの遠いことをつくづく感じたことでした。

石川 由紀

### NGOフォーラムで見たこと

半田 たつ子

アフリカは近かった。ケニアはがんばった。女たちは強く、やさしかった。ひとことと言えば、こういうことでしょうか。飢えるアフリカ。一色の報道や、世界会議は女性問題そっちのけ、政治的対立で紛糾の、の記事を出発点として論じ合うことの問題性をも強く感じました。自分が見たこと、聞いたこと、体験したことの上に立って初めにモノが言えるのではないかと痛感したことでした。

私は、十年前メキシコに行った人たちが核となり、その友が集まって作った急ごしらえのグループ、ワナワケ・ワ・ジャパニ(日本からきた女たち)の一員としてナイロビに行きました。私たちのワークショップは「近代化がもたらした女性問題」をテーマとし、アイヌの民族差別や、被差別部落の存在をも訴えました。出かける前のミーティングで既にグループ内に意見の対立が生まれたのです。

これこそ「近代化」の問題そのものと捉え、私は女性解放がすべての被抑圧者との解放と不可分である確信を得るために、レイシズム(民族差別)を考えるワークショップに重点的に出席しました。

言葉の壁もあり、解決できる理論を得たわけではありませんが、黒い層の人たちが訴えるべき中身を持ち、それを全身で語る迫力に圧倒されました。生命さえ脅かされる状況下で、ストリートに訴える内容が説得力を持つのは当然かもしれません。

同じ女としてNGOフォーラムを体験させたい。通訳としても役立ってほしいと、アメリカ留学中の娘をナイロビに呼んでいました。インドのダウリ(持参金制度)を訴えるワークショップで、花嫁が焼かれるという残酷性に驚愕した娘が、次いで、「赤ん坊を実家で生み、婚家にもどる時また莫大な品物を貢がなければならぬ」と通訳した時、私は「それは日本でもあなたが生まれた三十年前にはあったことよ」と言ったのでした。「近代化」の進んだ日本の女の問題と被抑圧者の問題を結ぶこと、「近代化」とは何か、ここをつき抜けて私たちはどこに向かうのかを、私は自分に問いつつ帰ってきたのでした。

もう一つつけ加えます。ベティ・フリーダが主宰した「フェミニズム&ブルラリズム」

に出ました。司会した彼女は、マイクの前に並び発言の順を待つほどの女性たちの意見を柔和な表情でさばいていきました。私たちのグループの一人がこうつぶやきました。「十年前、メキシコで、フリーダンは三角形の頂点にいた。ナイロビで、今多くの女性がフリーダンの横に並んだ。これが十年の成果だ」と。

### いろいろな ワークショップから

中嶋 里美

「誰も武器を買わなくなったらよい、そうしたらヨーロッパもアメリカも減るだろう。人を殺す武器で金もうけしている国なのだから」とスーダンの女性は激しい口調で言った。ここは平和問題を討論する TENT 通りの小屋、いろいろな国の人が短いメッセージや、歌をうたいながら論じ合っていた。七月一日最初にのぞいたワークショップであった。

翌十六日、本館から二〇分も歩くチロモキヤンパスの階段教室で行なわれた「新しい分野での仕事に挑戦するための意識をどう育てるか」というワークショップに参加した。「今の科学技術は男性に握られ、軍事目的のため

に使われている。本来は人々の日常生活をよくするために使わなければならない、そのためにはもっと女性達がそうした分野に進出しなければならない」とデンマークの女性。「理数系は男子の方が優れている」という神話はどうか他の国々にもあるらしく、とりわけ男の教師がそういう意識を持って教えていると女子は大変迷惑するという話も出ていた。そしてロスアンゼルスのあるグループは「女子のための数学のテキスト」を作り、実際に生徒に使ってもらって効果があったという報告もあり、どの国も女たちが同じような試みをしているのだと思った。ザンビアの人からの意見で「女性があらゆる分野に進出するのは意義多いことであるが、家庭の中で女の子ばかりに家事をやらせたり、男の子ばかりが自由に出来る時間を与えられているのは問題である」という発言があったが、日本での集会とそっくりだという思いで聞いていた。

もっと世界の最前線で活躍することの意義を心の底から認識した。「例えば先進国グループが農業援助に来る。アフリカで実際に農業をやっているのは女性が多いが、そうした人達の意見も聞かずに、大規模な技術を導入されたりしては困るのである。そしてきまつてそういう先進国の開発援助組織には女性が入っていない。」「OPEC(石油輸出国機構)の中にだって女性が入っていないではないか!」

「各国の女性達ももっとと政策決定の場へ進出して、地球規模で問題解決をしなくては」と結んだビルマの女性の情熱的な顔は永久に忘れたくない。その他「もし女性達が世界を支配したら」「働く女性の健康」「スーダンに於ける女性の組織づくり」等のワークショップに参加したが、大体教室内の通路に坐って聞いた。どのワークショップもレポーターの発言が終わると数十の手が即座にあがる。見習うべき光景であった。

らいたいと思う。それは国連とNGOが一緒に開く会議である。この会議を十年の終りにさせてはならない。二〇〇〇年迄、必要ならばもっと先まで、女性の平等へ向っての長い行進を続けなければならない」とあった。

### 家庭科教育についての アンケート結果

——ナイロビ大学に集う  
世界の女達の声——

中嶋 里美

七月十五、十六日の両日、一三〇〇〇人の女たちのエネルギーで湧きかえるナイロビ大学の一角で家庭科教育についてのアンケートを行い、二二人の女たちから熱いメッセージをもらってきました。

アンケートに協力してくれた人たちは次の通り。ケニア五名、アメリカ五名、カナダ三名、ノルウェー二名、オーストラリア二名、オランダ、ザンビア、チリ、セイシエル、イギリス各一名づつ。

一、あなたの国では家庭科をどのように教えていますか。

ケニア……十二才より十三才迄男女共必修、但し男女共にやるのは被服だけで料理は女子のみ木工は男子のみ、十四才では女子のみ必修。アメリカ……八才より十一才迄週二時間選択(フィラデルフィア)。十一才より十四才迄三時間男女共必修(ニューヨーク)。カナダ……十二才より十三才迄週一時間男女共必修、十五才より十六才迄週一時間男女共必修。オーストラリア……十二才より十三才迄週二時間男女必修、十四才より十五才迄週二時間選択。ノルウェー……小中学校共男女一緒に学ぶ。

三、あなたの国では過去十年間に家庭科教育に大きな変化がありましたか。

ケニア……去年小学校に家庭科が導入されたばかりです。それは生徒に家庭科の基礎的知識がないので導入されました。

アメリカ……以前より多くの男の人が興味を持つようになった。世界中の人々の考え方に変化が起きたから。カナダ……教育内容も変わり、若い男性が家庭に妻がいなくてもやっていけるようになりました。

ザンビア……より多くの女性達がどのように

お金や時間を使うかがうまくな  
ってきた。

オーストラリア：以前は女子だけ学んでい  
ましたが今では中学で共学です。

四、あなたの国ではどの位男性は家事に参加  
していますか。

「女性が一般的に家庭責任を持ち、男性はい  
つも手伝う」という項目に○をつけた人達  
(ケニア一、アメリカ二、オランダ一)計四  
名。

「女性が一般的に家庭責任を持ち、男性は時  
々手伝う」という項目に○をつけた人達。

(ケニア一、アメリカ一、カナダ三、ノルウ  
エー二、イギリス一、チリ一、ザンビア一)  
計十名。「女性だけか家庭責任を負う」に○  
をつけた人達(ケニア二、セイシエル一)計  
三名。

五、あなたの国では過去十年間の中で家庭に  
於ける男性の役割が変化してきましたか。

そうでしたら理由も書いて下さい。

ケニア……男たちも「家事を援助しよう」  
と申し出てきた。

アメリカ：男たちが家事や育児を以前より  
するようになった。さらにもう  
一つの現象としては誰もが十八

二十才位で親元を離れるので  
男も家事のすべてをやらざるを  
得なくなった。

カナダ……教育のせいで少しづつ変ってき  
ているが、その変化はゆっくり  
としたものである。

ノルウェー……男性達は十年前と比べて一日  
二〇分多く家事をするようにな  
った。

イギリス……女性の運動に興味を持っている  
男性は女性との連帯として今迄  
以上に家事をするようになった  
が、それ以外の人には変化なし。

オランダ……政府も家庭内に於ける責任の平  
等ということキャンペーンし  
ているので、変化は序々に起き  
ていると思う。

オーストラリア……男性達は以前より当然の  
こととして、パートナーの役割  
を受け入れている。若い男性達  
は家事、育児をやっている。

「家庭責任をもつと男性が受け持つようにな  
るための最良の方法は何だと思えますか」  
「男性と女性との関係について他に自由に書  
いて下さい」の項目に対する回答は次号で。  
乞う御期待！

## 旅で見たこと聞いたこと

NGOフォーラム参加者は、会議場の外で  
もいろいろな体験をしました。会議が終わっ  
てから、ヨーロッパを旅したグループもありま  
す。そうした見聞の中から――

### ナイロビで

聞いたこと見たこと

持田 ナミ

- (一) ガイド(キクイ族の青年)さんから、  
◆国会議員一五〇名中女性二名、一名は大統  
領の指名。議会は一院制、五年毎に選挙。  
◆保育園はない。出産後三ヶ月ぐらい休暇  
◆義務教育の就学率は七〇％  
(二) 青年会議のボタントリーとの交流会で  
◆賞金――同じ資格なら男女差はないが、女  
には扶養手当はつかない。  
◆中学生が妊娠すると、学校を追放され、売  
春婦になる子が多い。救う体制がない。女性  
の仕事がない――職につけない。  
◆一夫多妻制であるが、宗教(キリスト教)  
によって一夫一婦の考え方に変わってきている。  
◆男女数の比率が女三対男一

## イタリアの家庭科

イタリアでは、公立の中学、高校はすべ  
て男女共学(私立校は少い)で、一九六三  
年から家庭科も男女いっしょにやるようにな  
りました。裁縫をやりたいがらない男の子  
もあるけれど、早くから教えれば問題ない  
と先生たちは言っていました。

家庭科の内容は学校、クラスによって

### 旅での思い、そのひとつを

半田たつ子

明日は帰国という日、アンボセリへ日帰り  
サファリを自分に許した。同乗のメロデー  
はカリフォルニアからきた黒人、祖先はアフ  
リカから買われた奴隷という。ジムはもと大  
学教授、今著述業、フォーラムにも参加した  
白人。私と娘、黒人運転手ピーター、五人の  
ツアード。悠々と巨象が列をなして歩き、木  
陰にライオンの夫婦が憩い、案外愛嬌のある  
ハイエナがきょとんとこちらを見ている大自  
然から二時間半かけて近代都市ナイロビに帰  
ってくる道、人間の歴史に思いを馳せた。

### 男女平等、イタリアでは

梶谷 典子

イタリアでは、社会党、共産党、労働総同  
盟の女性と、中学・高校の先生に会いました。  
その誰もが、法律面では男女平等は非常に進  
んでいると胸を張っていました。が、実際に平  
等をすすめるのはまだまだ大変だという点で  
も皆同意見のようです。

◆乳幼児死亡率が一〇〇〇対一二四。

◆年間百万の出生、政府はファミリープラン  
ニングをしている――人口増を抑える。

◆女から男へ――ワイフは何人持ってもいいが、  
ひとりひとり責任を持つてほしい。

◆女性の運動によってかちとったこと――妻に  
責任を持たない者には鞭の刑。結婚しない人  
を妊娠させたら、五万シリングの罰金を払い  
その女と結婚しなければならぬ。

(三) 海外経済援助資金で技術革新事業をすす  
めるために、出向しているE氏(和田先生の  
かつての教え子)に招待されて、

屋敷二千坪、住宅八〇坪、別棟に使用人の  
住居がある。自動車二台、メイド二人、夜警  
要員、犬四匹、家族四人の生活である。

メイドさんの月給一万円余りだが三千円あ  
ればほぼ生活できるそうである。

日本では考えられない生活のようだが、玄  
関は二重扉、窓には鉄格子がはいっている。

雇い人が強盗の手引をしたとか、外灯もな  
く、治安が悪い。郵便物は局の受信箱まで取  
りに行く。複雑な気持で話をきいた。

四 ファンタオレンジ、コカコーラ、アイス  
クリームが、アフリカにやってきた――冷たい  
ものは食べないアフリカ人の中に氾濫！

差別は禁止されていても、巧妙なたちで事実上の差別が行われたり、女は家事の負担のために仕事や組合活動や政治活動が十分できなかったり、政党や組合の幹部に婦人問題に無関心の人が多かったり……。それでも若い人たちは変りつつあるし、組合の中でも家事の分担について討論をすすめているし、社会党と総同盟では、役員の男女の比率を組合員の男女の比率と同じにするという方針をきめたということです。驚いたのは、国会議員の選挙のとき、「女に投票するように」というキャンペーンを国がやったということ。内閣に女ばかりで構成される婦人問題の委員会があつて、そこで決定されたのだそうです。イタリアでは男女平等や母性保護が進み過ぎて経済に悪影響が出ているという声もある

ので、その点をただしてみますと、社会党の女たちは、マイナスの影響があることは認めながら「母性は社会のもの、平等も保存も決して後戻りはさせない」と言い切っていました。

#### 協同体(新しい家族)について

古田 励子

西ドイツでは、男女入り混った十六人の協同体生活(ここでは「家族」と呼んでいた)を見た。五階建ての一軒家の三階分、二十数室を協同で借りると、一人一ヶ月三万円の食住費で済むという。全員が個室を持ち、共同使用はバス、トイレ、台所で、炊事を担当す

#### ドイツの家庭科

ドイツでは小学校では男女とも裁縫と刺繍をやり、中学以上の家庭科は選択。やはり女の子のほうがよくとるそうで、女子校では特に盛んだとか。

共修運動は起っていないようで、ローマの国連事務所に勤めるドイツ女性には、私たちの運動の資料を見ると目を輝やかせて

「いいことだ、大事なことだ」とくり返していました。

ドイツでは、「男は仕事、女は家庭」という考え方は新家族法によつてはつきり否定されているものの、男性の家事参加度はヨーロッパの中で最も低いといわれます。といっても日本とは違うようですが――。

(梶谷 典子)

#### 授業参観報告

埼玉県立新座総合技術高等学校

#### 自然な

#### 男女いっしょの学習

八島 紀子

六月十四日(金)に、共修の会のメンバーと出版社の山川さん、それとお母さんに勧められて見に来た主婦の鈴木さんの六人で、埼玉県立新座総合技術高等学校を訪れました。

この高校は、工業系、商業系、家庭系の三つに分かれ、家庭系は、食物調理科、服飾デザイン科の二つの学科があります。

私たちは、食物調理科二年生の西洋料理の実習と一年生の家庭一般(各科いっしょ)の授業を見学しました。

さわやかな音楽が流れると同時に授業開始です。この高校は、すべて、生徒の選んだ音楽によって一日のスケジュールが進むのです。西洋料理の実習は、男女、好きな同志で班を作りましたが、男子だけの班もチームワークがとて良く、機敏に行動していました。

西洋料理は一時間目から三時間目まででしたが、二時間目と三時間目には一年生の家庭一般の授業もありました。家庭一般は、食生活の脂肪性食品についてでしたが、日頃、よく目にする食品が机の上に並べられ、その中から脂肪を含んでいるものを区分したり、市販油脂の原料を書き出し、資料集で専門的に説明を加えたり、とてもわかりやすい授業でした。

△懇談会で▽

カフェテリア式の食堂で食事をした後、先生方を囲んで話し合いをしました。

まず、教頭先生から、かなりの倍率で入学してくるので、生徒たちは遠い地域から来ていることや、前にも書いたようにチャイムを使わず休憩時間は音楽を流して行動すること、高卒と同時に調理師の免許が取得できることなど説明がありました。

それと、学校の中だけでなく、外での実習期間が二週間設けられており、卒業したら即実践できるようカリキュラムが組まれていることについて話がありました。

るのは二週間に一度位という。

良さは、生活費の安さと、そこから来る生活の気楽さであろう。一ヶ月三万円分働けばあとは自由時間である。自分の本当にやりたいことに打ち込める。更に反核斗争のデモなども、思想を同じくする者の協同体であるから、全員で参加するという連帯性もある。

自己の人生を充実させるために、働くことの意味と限度を心得た人たちが政治や生活を変えていこうとするあり方に感動した。また、この協同体は、血縁によらない新しい意味の家族として考えてみるに値すると思う。日本のように一夫一婦制を基本とした「家族」は、為政者から見た時都合がよい制度だが、今日、様々な面で問題も出てきている。もし、離婚後も住める共同体家族があればどんなに心強いことだろう。また、つれあいに別れた人たちが、その仲良しが大勢で住むという形態が一般的になり、それ向きの家が建てられれば、一夫一婦制家族のひずみや不経済性は是正されるかもしれない。更には協同体家族は、一歩前進した家族形態として社会に認められるかもしれない。新しい家庭科は、新しい家族をも問題としなければならぬと思う。

#### 新座総合技術高校は……

文部省の研究開発指定校として一昨年発足した総合選択制職業高校。

電子機械科、情報技術科、工業デザイン科、商業科、食物調理科、服飾デザイン科の六学科があり、どの学科も男女共学。

専門学科の枠をはずしたミックスホームルーム、所属学科以外の教科も履修できる総合選択制、企業等に出かけて実習を行うことなどが特色。

一人一人の生徒を生かそうと選択科目が多く、時間割も工夫されておりました。ホームルームは、工業科、商業科、家庭科の生徒がミックスしてあり、学科間で分断されないよう配慮されているということです。

家庭科の先生によると、男だから女だからを考えずに、授業内容をよく吟味しているということです。日頃授業について研究していないと生徒がついてこないの、いつも研究するように努力しているそうです。

ホームルームでは、心の触れ合いを大切にしており、家庭科の授業だけでなく、生徒とうまく接している姿がうかがわれました。

参観者の間から、「男女が自然に混ざっている。」「男子が落ちついて授業を受けている。」「設備がうらやましい。」等が出、家庭科の教師から、「ゆとりのない自分の授業に反省している。作るだけの授業から社会的な問題にも目を向け、広がりのある授業をした。」という意見が出されました。

この高校のように、新しいことに挑戦するのには、学校あげて取り組むことが大切であることと、先生方の日頃の努力の姿にすばらしいものがあると感心しました。

それと、とっても良かったのは、男だから女だからを意識せず授業をしている先生、そして、あたり前のように男女で実習している生徒の姿が印象に残りました。

### 食物調理科「西洋料理」の実習見学

持田 ナミ

西洋料理の単元では、スープ類一八、魚を主とする料理二一、肉を主とする料理二一、野菜を主とする料理一八、卵料理九、行事食三、計九〇時間を計画していました。

二年生の実習でしたが、男一六名、女二三

名の生徒が、家庭科教師二名、専門講師一名の指導のもとに、三時限を使って実習です。

学習は、専門講師（ホテルのシェフさん）の実技が生徒の操作するカメラによってテレビに写され、A教師が講師に質問する形式をとりながら生徒に解説し、B教師は要点を板書するという方法で進められ、生徒は見学が終ると、調理台に分かれて作業を始めます。実習内容は、仔牛のクリーム煮、りんごの衣揚げ、マيسガレット（とうもろこし粉のせんべい）の三品でした。

生徒たちは、包丁の使い方をはじめ手際よく、落ついた雰囲気でした。

私の質問に、調理師になるかはきめていないが調理は好き。日曜日に家でもやる。生活に役立つなど、男女共同じような答でした。

### 家庭一般の授業から

山川みづほ

共学といっても、女子46名、男子5名の片より。座席は自由、で男子は前端にお団子にこれだけ人数差があると、何となく彼等の気持わかります。今日は、「食生活」——脂質

とその食品——の授業。日ごろ目にする油脂類を展示品により鑑別、まあまあわかってました。サラダ油・天ぷら油という名称で使い慣れ、使い分けもしていたつものの生徒（見学者も）、質問され、少しずつ本物がわかってくると、「事実には作られている」ことに気付いて。今はやりのドレッシング類も知り。しかも、日本では原料もほとんど自前ではないのです。誰がそうさせているのか、便利さとは何かetc、考えるきっかけは出来たようです。

2時間目の授業はほんの少しの見学、脂質という女子にはキラワレ者、でも適材適所、大切な栄養素であることがわかってもらえたらと思いつつ席を立ちました。

文部省など、家庭科男女同席不可能の理由に、中学までの差をあげていますが、何の何の、質問に対する答え、反応、一歩も劣らずと見ました。性別を問わず、持ち味を発揮して。あらためて、女子しか教えたことがないから怖い家庭科教師に、?をなげかけます。

同校は設備が整っています。当然他校もこうあるべきでしょう。でも、入れ物なくとも、やっぱり共学はできる……と確信した授業見学でした。

### NHK

### 「おはようジャーナル」で共修問題が……

芦谷 薫

六月二十七日のNHK「おはようジャーナル」は「拝見ノ男子も学ぶ家庭科授業」だった。全国版朝のワイド番組で正味四十五分間。しかもただのワイドじゃない。取材した高校は画面に出ただけでも、東京の農産、栃木の黒羽、北海道の滝上、長野の須坂、それに静岡と各地に広がっている。その授業紹介は男子も包丁を握ってますというようなおおび腰ではなく、魚一匹丸ごとどう料理するか、野菜作りから始める実習とダイナミックで、その目標は作り方ではなく、食品そのものの学習や食生活の問題点に迫るための実習として紹介されている。

さらに新聞切り抜き調査レポートや人生設計プラン、愛と性についての生徒達のユニークな生のレポートも紹介され、調理実習、栄養計算、被服製作といった家庭科の固定的イメージを崩すものであった。

この取材の中で静岡県の現場では「共修をいうことがタブー」になっている現状や教師

が男女共に教えたいと願っていても、県教委の指導でなかなか実現できない実情が卒直に取材者の目を通して報道された。授業紹介や須坂高校の男子卒業生へのインタビュー、ゲストの都立目黒高校の福留さん（会員）の発言——子どもや家庭・生活の現状をふまえた共修の意義——によって示された家庭科教育の重要性とともに、共修の広がりが一筋縄ではいかない現状もきちんと報じられていた。

一筋縄ではないかない一因の高校長協会桜井氏の「男子が必修になろうが選択になろうがどうでもよい、女子必修がはずされることが問題。今の家庭科は女子が家庭経営をしていくためにつくられたのだから、女子必修がなくなれば家庭が崩壊する」という本音を全国の視聴者はどう受けとめたのか知りたい。

ゲストは福留さんの他に、自ら生活実践者として変身してきた山本コータローさん、なかなか鋭い発言をさり気なくでいい感じ。そして朝日新聞の佐藤洋子さんからは、国際的な男女平等の流れと家庭科問題をきちんと解説され、「学校の中の女性問題の象徴として家庭科の問題がある」と指摘された。

「これからの家庭科教育を考える」企画が全国ネットのNHKで本格的に始まったことが何より嬉しい。

### 女子差別撤廃条約の

### 訳文が変りました

女子差別撤廃条約の批准にあたり、外務省の正式の訳が発表されました（今まで引用していたのは仮訳）ので、一番よく引用する第10条の部分をご紹介します。

第10条 締約国は、教育の分野において、女子に対して男子と平等の権利を確保することを目的として、特に、男女の平等を基礎として次のことを確保することを目的として、女子に対する差別を撤廃するためのすべての適当な措置をとる。

(a)——略——

(b) 同一の教育課程、同一の試験、同一の水準の資格を有する教育職員並びに同一の質の学校施設及び設備を享受する機会。

(c) すべての段階及びあらゆる形態の教育における男女の役割についての定型化された概念の撤廃を、この目的の達成を助長する男女共学その他の種類の教育を奨励することにより、また、特に、教材用図書及び指導計画を改訂すること並びに指導方法を調整することにより行うこと。

(d) (h)——略——

(編集部)



## 臨教審と女性民教審

半田たつ子

### 一、臨教審第一次答申

六月二十八日、臨教審は第一次答申を発表した。内容は審議経過の概要等から予想していたこととはいえ、失望し、憂慮を深めた。

① 教育の現状のとらえ方に誤りがある——「教育基本法の精神にのっとって審議をすすめ」たというが、その精神が、なぜ空洞化したかという考察と反省が全くない。いじめ・登校拒否・校内暴力・非行などを、制度の画一性・硬直性によって生じたとし、背後に家庭の教育機能、徳育の在り方、教師の指導力の低下などがあるというが、どういう手段で回復させるつもりか、その意図を危惧する。

② 教育改革の理念を欠く——「21世紀からの要請に応え得る教育」と大上段に構え、今育ちつつある子供から出発する教育理念がない。

③ 教育基本法の精神を一面的にしかとらえていない——教育基本法の精神にのっとり審議を進めたというが、同法の平和・真理・正義など民主主義の基本価値をすっぱり欠いた

上で、抽象的に「個性重視」をうたっている。

④ 教育の自由への論議の腰が砕けた——いじめ・非行などを病理現象と見、教育の画一化・硬直化を元凶ととらえ、華々しく掲げた「自由化」が答申では消えた。臨教審の観点では競争の自由と結びつくもので、極めて危険ではあったが、教育の自由を論ずる契機にはなった。その場から身をかわしたのは残念だ。

⑤ 共通テスト・六年制中等学校などの具体的提案は、改革の全体構想に結びつかない——教育改革の理念・方向を深めないまま、公聴会で批判が続出した姑息な目玉商品を並べ、性急に事を進めるのは、首相の政治日程に合わせているのではないか。

⑥ 衣の下を鑑を見る——戦後教育改革を「わが国伝統文化の特質・長所の否定、徳育の軽視、権利意識と責任意識の不均衡などをもたらした」ととらえ、くり返し「日本人としての自覚」、国際競争の中での「我が国の存立と発展」を強調、国家主義的傾向の復活を意図している。

### 二、臨教審への要望書

会では七月初旬、岡本会長に次の要望書を送った。

「臨時教育審議会の第一次答申を読み、私

たちは落胆いたしました。これまで再三要望してきたにも拘らず、「男女平等をすすめるための教育」を重視することについて、全く言及していないからです。

答申が出る二日前、六月二十四日には「女子差別撤廃条約」の批准が国会で承認されました。この条約において、教育における性差別の撤廃が求められていることは、ご承知のはずです。今回の答申には、私たちが昨秋以来要望してきた次の三項を必ず盛り込まれるよう、ここに重ねて願うものです。

一、生活についての教育を重視し、学校教育の中にはっきり位置づけること。

二、男女平等をすすめるための教育を重視すること。

三、中学・高校で家庭科の男女共修を実現すること。」

その前、四月に発表された「審議の概要」に関しても、同じ趣旨の要望書を送りました。——編集部

### 三、女性民教審の活動

85年夏号で駒野さんが協力を呼びかけられた「女性による民間教育審議会」は、精力的に活動が続けている。教育110番で、じかに聞いた子どもや親の訴えを出発点に、臨教審の

動きを監視し、批判や注文を行いながら、私たちの側の教育改革を提言することが目標。臨教審から審議経過の概要(その二)が出るや、慎重に検討して、公開質問状を出した。九項目の中に、「公立の男女別学校がなお存在し、家庭科の男女共修が遅々として進まない状況の中で、学校現場には男女差別が日常的に見られます。臨教審の皆様は、平等が強調されすぎたおっしゃいますが、この点についてはいかがですか」を入れた。

また第一次答申に対しては「私たちの意見をまとめ、「私たちの教育理念」「私たちの教育改革提言——当面の検討課題」を発表した。臨教審メンバーとの会談を早くから要望してきたが、七月十六日に実現。先に提出した公開質問状の答をきくという形で進められた。第三部会の戸張敦雄氏は、男女平等教育に関して、「そういう教育課程に関わる内容、教育の中身や方法については、まだほとんど審議されていない」と答えている。

審議会は、新宿区婦人情報センターを主な会場として月二回。うち第一火曜夜六時から、対話集会ふうの公開審議会。もう一回は非公開で、随時世話人会も開く。教育110番の分析で始まり、大学改革から教育養成の問題に進んでいる。メンバー相互の学習もかねて、

九月末には合宿して三テーマを討議する。ここで私は「男女平等教育と家庭科」をレポートする。現在賛同者は約三百人。メンバーは手弁当でがんばっているが、すべてカンパで賄うために会計は苦しい。公開審議会への参加、カンパなど、ぜひあなたのお力をいただきたい。(問い合わせ先—03・268・7958—女性による民間教育審議会)

### 世話人会報告

△五月二十五日▽

夏号発送作業後、行った。

●報告—関係者から次のことが報告された。

(1)「臨教審」の公聴会に参加、ものものしい警戒、各団体から動員されているようだった。発言の中から—小学校で女教師が増えているが男の子の気持がわかるか、もっと体育を重視、三歩下って師の影をふまず、の教育を。

(2)「48団体」連絡会報告—声明文を出した。秋の大会について5月29日委員会をひらく。差別撤廃条約の決定版のコピーが配られた。

(3)「技教研」のシンポジウムに参加して—家庭科ばかり、脚光を浴びるのはおかしいと原氏から発言があった。

(4)鳥取の動き—「検討会議」の報告がでたの

で家庭科の本質について学習することになった。

#### ●協議事項

(1)「臨教審」会長あての要望書原案検討修正。

(2)「世界会議」参加に向けて、アンケート原案検討修正、チラシの内容、フォーラムについて話し合う。(持田 ナミ)

△六月十四日▽

●ナイロビ・NGOフォーラム関連。

(1)アンケート及びちらしの英文の検討。

(2)前二件、手分けして現地へ持ち込む。

●四八団体連絡会関連

(1)85年日本大会には教育分野に参加、男女平等教育、職業教育と進路指導、男と家庭科、国公立学校に於ける男女別学制の問題、男子エリート校の存在等の点があげられる。

(2)会の方針としては「何をやってきたか」ではなく「今後なすべきこと」に焦点をあてて準備をすすめて欲しい旨、申し入れる。

●新パンフの進捗状況—今資料収集中。

●黄パンフ品切れ、五百部急ぎ増刷。

●教課審が今年中に発足、要望書を出す。

●昨年の全国高P連の大会決議に抗議して、署名運動が始まり、協力要請、協力する。

●六月十四日、衆院文教委の江田質問に対し「中学の技・家は条約上問題ないようになっている」と文部省。(石川 由紀)

△七月六日▽

女子差別撤廃条約が6月25日に批准されたこと、「国連婦人の十年」世界会議に民間代表として縫田暉子氏、山崎倫子氏が入ったこと、男女雇用機会均等と今後の行政の対応についての説明が赤松良子労働省婦人局長から行われたこと、日本大会開催準備は、問題別委員会を五つ「政策決定参加」「教育・マスメディア」「労働」「家庭・福祉」「平和・国際協力」に分けてもつことになったことなど、「連絡会」からの報告がありました。

教育課程審議会を発足させるにあたっての文部大臣への要望書の検討をしました。

#### 一九八五年をふり返る会へどうぞ▽

女子差別撤廃条約が批准され、新教課審がスタートした一九八五年をふり返り、一九八六年の運動について大いに語り、楽しく飲み、食べましょう。

- とき 十二月二十二日(日) 午後六時
- ところ 渋谷「じょあん」
- 電話〇三・四六四・七六六三
- おかね 料理三五〇〇円 飲物代別
- 参加申し込みは石川由紀さんへ
- 電話〇三・七〇一・八五七八

## 国会から

### 文教・外務連合審査委員会

5月29日

旧聞になりましたが、さる5月29日、衆議院では「条約」批准とかわって、文教・外務連合審査委員会がひらかれ、第10条(教育)に焦点をあてた審議が行なわれました。

政府側からは、外相、条約関係者、文相および文部省関係者が出席し、五党議員が質問に立って、家庭科問題についてのつめの質疑を、三時間近く行いました。

情報を入手したのが前日の夕刻で「会」から傍聴に行けたのは、たった一人で、切角の機会を生かし切れず残念でしたが、印象にのこった政府側の発言(要旨)からいくつかを選んで、報告いたしますと、

(外相)「差別撤廃条約」の批准によってわが国は、条項の実現を国際的に約束したのであるから、その趣旨が生かされるよう誠実に努力する。(しかし)条約は画期的な内容なので、漸進的にとりくみたい。

また、臨教審第一次答申に家庭科についての記述がなかったことに関しての要望書を送ること、9月中旬にすでに集まっている署名を持って文部省に出かけること、さらに新しい署名行動を始めるための原案を考えることの提案があり、行うことを決めました。

(青山 和世)

△八月三十一日▽

●四八団体連絡会から

●ナイロビ・NGOフォーラムの報告。

●ILO七一回総会で「雇用における男女の均等な機会及び待遇に関する決議」採択。

●11月22日、85年日本大会の名称決定「国連婦人の十年日本大会——平等・発展・平和・二〇〇〇年に向けての行動」

於日比谷公会堂。十時～三時。後デモ行進。

●二〇〇〇年に向けての提言案作成中。当会からも出来るだけ多数参加して、男女平等教育等の件を盛り込むように働きかけよう。

●10月19日集会について

●タイトル「二〇〇〇年に向けての私達の戦略——新教課審に求める——」

●内容・ナイロビ報告及び新教課審に対する署名活動等、対策。

●集会関係連絡先及び責任者・芦谷氏。

●新パンフ「家庭科 なぜ共修 どんな共修」

(文相)★第10条(b)、(c)項にそって「同一の教育機会」の実現「定型化された役割分担の指導が行なわれることがないように」する。

★家庭科は、家庭の機能が適確かつ健全に行なわれるための知識、技術を学ばせる重要な教科である。従来女子のみ必修になっていたのはわが国の歴史と伝統の結果であるが、これを改めるのが「条約」の趣旨である。

(高石初中局長)★中学校技術・家庭科の現行取扱いは、「条約」に反している。(b)項にそって改める。★学校の家庭科では、原理的なものを教え、実学的なことは各種学校や専修学校で教える。★臨教審の答申をまっとう、教課審をできるだけ早く発足させ、「報告」を尊重して審議をすすめる、次期改訂に反映する。などでした。

(和田 典子)

### 衆議院文教委員会

6月14日

女子差別撤廃条約の批准を真近に控えた六月十四日、衆議院文教委員会で江田五月氏の質問を傍聴した。

江田氏の、中学校の技術・家庭が、男は技術領域、女は家庭領域とされているのは、女

の編集・検討。再度持ち寄り検討する。

(石川 由紀)

△九月十三日▽

●十一月二十二日に開かれる民間四八団体主催、国連婦人の十年最終年の日本大会に向けて、教育・メディア委員会における協議の状況を和田さんから聞きました。

●十月十九日の集会のための役割分担などを決めました。大勢の参加を願っています。

●教育課程審議会が発足したので、いよいよ私たちの運動も最終ラウンドにかかりました。委員についての情報を交換し、委員や文部省に対してどう働きかけるか、十月十九日の集会における新しい運動の提案内容を話し合いました。

●新しいパンフの中身について原稿検討に時間をたっぷりかけるつもりでしたが、夜の三、四時間ではなかなか深められず、十月五日の会報発送の際と、十月十二日に引き続き検討することにしました。正念場を迎えた今、時間が欲しい、力が欲しい。一人一人の力を集めましょう！

(半田たつ子)

★おわび

夏号掲載の「一九八五年度世話人」の中に伊藤恭子さん(川崎市)が入っていませんでした。おわびいたします。

女子差別撤廃条約に抵触するのでは、という質問に、高石邦男文部省初等中等教育局長は、「選り方の領域を、七領域から一つとかいうような制限を取っ払って、もう少し内容をふやして、男女とも平等にそれが履修できるという形態にしていけば別段問題がない」「現在の中学校における技術・家庭科が条約上全く問題ないというふうには考えておりません」と答弁。

又、中学も高校も、男子、女子の性別ではなくて個人の選択に従って、その領域の中から選択させることにし、高石初等中等教育局長は「基本的にそういう考え」と。

瀬島克己外務大臣官房外務参事官は、「条約をきちんと監視していくことは外務省に課せられた任務」と答弁しているが、そのための特別な機構をつくるつもりはなく、現在の女子差別撤廃条約批准準備室も解散させるということ。

久しぶりの傍聴、聞き逃すまいとメモをとっていたが、フト、顔をあげると、質問をしている江田氏以外の議員がいなくなっていたという一コマも。この日は、五月二十九、三十日の衆議院、外務、文教連合審査会での答弁の確認の意味をもっていった。

(馬場 洋子)



## ついでに校長会

高校長協会の

「検討会議報告」に対する

見解

芦谷 薫

高校長協会「家庭部会報第65号（S 60年4月発行）」のメインテーマは言うまでもなく「検討会議報告に対して」である。高井理事長の巻頭言、桜井事務局長の「家庭科問題についての経過と検討会議に対する見解」、理事會報告などから要約抜粋して報告したい。

- まず、家庭部会の見解の要約は次の通り。
1. 条約批准のために現行を変更しなければならぬとして設置された会議の結論としては、多様な意見をよくまとめた評価する。
  2. 女子教育の重要性が明確に述べられていないのは残念であるが、家庭科教育の重要性について述べられたことを高く評価する。
  3. 履習方法について一つの案にまとめられなかった点残念。一案は、我々の意見及び対立するといわれる意見を包括しようとした案であり、それぞれに不満はあると見られるもよくこままとめた。我々はどちらかといわれれば一案を採用したい。
  4. 近い将来開かれる教課審にむけて、家庭

科教育は女子にとって絶対必要であることに  
ついて理解を求めていく方針である。  
次に高井、桜井両氏の私見のなかからいく  
つかの報告をしたい。

「全国各地の校長先生の方のご尽力で、有  
力国會議員の先生方のご理解をはじめ、全国  
高P連（小島幸生会長、三〇〇万人）の大会  
決議にもなるほど、家庭科教育の重要性、と  
りわけ女子にとって『家庭一般』は必須の教  
養であるということが、世論にまで高まった」  
との高井氏に対して、桜井氏は「（テレビや  
新聞でも）我々の意見を含め、いろいろな方  
面の意見を伝えたが、概して一般の新聞では、  
私たちの意見とは異なり、男女共修を進める  
会の意見にウェイトが置かれていたと考えて  
よいと思われる。この意味から世論をどうし  
たら私たちの意見に同調させたらよいかとい  
うのが私たちの悩みであったが、これは何と  
も解決できなかったと言えよう」と、実際に  
運動をやってきた者としての正直な報告であ  
る。

又高井氏は、今だに「『家庭一般』が婦人  
運動に巻き込まれた不幸なできごと」と考え  
ておられるようで、法律ではない規則が、他  
の二本の法律事項と並んで批准抵触の問題と  
されたこと何とも理解しがたいままでおられ

るようだ。そこで条約の条文を引き合いに出  
して、女子のみ家庭科は差別でないと、しつ  
つと主張する。曰く「第四条二項の母性保  
護を目的とする措置は差別と見做さない、第  
五条（）項の児童の利益は最初に考慮されるべ  
き事項を考えれば、『家庭一般』が女性の本  
質的使命を配慮した科目である限り差別に当  
たらぬ」と。仮りにこの条文引用が妥当だと  
しても、何故女子教育の要としての家庭科や  
特性に応じた教育がこの条約のいう差別に当  
たらぬのかの説明が著しく不十分で説得力  
が全くないものだということに高井氏は気づ  
いていない。

今後については、教課審の審議にいかん  
女子教育の考えを盛り込んでいくかが批准後の  
運動の重要課題だと張り切っている。そして  
遠い将来には男女別の家庭科教育の実現をめ  
ざしており、それには20年かかるだろうと  
いう見通しを考えているようだ。

この「見解」は多くの方に知っていただい  
たほうがよいと考えて、次のような方がたに  
コピーをお送りしました。

共修問題に関心を示された国會議員、各政  
党婦人問題担当者、新聞、放送の婦人問題担  
当者、それに総理府など。（梶谷 典子）

## いろいろな集会から

### 第二回国際フェミニスト日本会議

六月一日・二日

日本に住む外国人と日本人のフェミニスト  
の交流を主とした目的で開かれたこの会議は、  
当日参加も含めて三百人近くの女が集まり、  
17の分科会で討論が行われた。

「女と教育」の分科会では、当会の世話人  
でもある芦谷氏が、日本の学校教育における  
性差別の現状を報告、続いて討論に入った。  
報告の中の一つに制度上の差別を取りあげ、  
主として家庭科の問題を説明、抗議運動の結  
果、文部省はやっと差別性を認めた。しかし  
その検討会議の結果は教育の機会均等の方向  
を示しただけで、内容的には男女別教育の可  
能性を残したままであり、差別撤廃条約の精  
神を理解しているとは思えないと報告した。

家庭科に関しての会場発言は少なかったが、  
「アメリカでは州によって異なるが、自分の  
ところでは一時期あった。やはりある方がい  
いと思った」「日本の家庭生活では男の家事  
時間がほとんどなく、家庭教育での改善は無  
理、学校教育の中でやる必要がある」等の発  
言があった。最も多かったのは男女別学校の  
問題であった。（石川 由紀）

### 家教連創立二十年記念夏季集会

創立二十年目をむかえた家庭科教育研究者  
連盟では、家族・家庭の未来像を求めて――  
いまこそ男女共学の家庭科を――をテーマに  
ことしの年次大会を、上野・池の端文化セン  
ターでひらきました。

7月29日、31日、2泊3日のハードスケジ  
ュールにもめげず、全国各地からかけつけた  
参加者は、四五〇名にのぼり、会場は熱気に  
あふれていました。

例年になく参加者、学生や男性教師の参加  
が少なくなかったこと、沖縄から二〇名近く  
が参加したこと、中学校からの参加がふえた  
ことなど、どれも、男女共学家庭科への関心  
と期待が高まっていることを語ってました。

国連婦人の10年最終年にふさわしく、記念  
講演は「世界の婦人たちはいま」のほか、ナ  
イロビのNGOフォーラムに参加された会員  
による報告やアフリカ問題の講座なども設け  
られました。

そのほか、二十年の歩みをまとめた史料、  
パネル、アルバムの展示や構成劇などもあり  
ましたが、家庭科の共修に関する面では、  
(1) 検討会議報告以降、共修を受け入れよ  
うとする空気が現場に生れてきていること。  
(2) 共学の教育内容検討委員会が、現場や

官制研究会などにも設けられ、学校や地域ぐ  
るみで共学家庭科の検討がはじまっていること。  
(3) 共修にかんする情報や資料が求められ  
ていること。

(4) しかし、他方では、臨教審の多様化の  
動きにのったり、母性教育やボランティア政  
策の要員として女子をとりこもうとする動き  
や策動もうまれていること。

(5) 家教連の、男女共学家庭科で、何を教  
えるか――小・中・高全体構想試案――に  
対して、関心が強かったこと。  
などの状況がよみとれました。

（時得 捷子）

### Weの夏期フォーラム

八月十・十一・十二日、二泊三日で武蔵嵐  
山国立婦人教育会館で開かれました。参加者  
は大人一五〇名、子ども三〇名程、北から南  
から、子連れで、また一家をあげて集えるの  
はWeならではのことでです。

一日目の「自己表現の楽しさを体験しよう」  
では、内村章一郎さんの指導のもと、初対面  
の人に自分の感じてきたことや自分の思いを  
どう表現するかという実習に、二時間半はあ  
つという間に過ぎ、Weの仲間意識はばっちり  
つくり上げられていました。

二日目前半は、横浜の浮浪者襲撃事件を追

った「人間をさがす旅」から「やっと見えてきた子どもたち」を書いた青木悦さんの講演でした。自分のやったことの意味もわからず自分が生きている実感すら持てない子ども達をつくったのは、物の豊かさを求めてきた社会大人ではなかったか。弱い者を排除する社会の中で子どもたちもまたはじき出されている、大人の弱い者同志心を開き語り合っている、人間らしいつながりをつくっていくこと。家庭の仕事が一番大切な生きるための仕事としてみんなが生活をつくっていくのではありませんか。家族の人間関係もつくれないのではないかと――と語られたことに感動しました。

さて、盛り沢山の分科会、交流会、それも語り合いたいテーマがあれば自由に作れるというのもWeならではの事です。「自己表現の部屋」「男と女」「大人と子ども」「家庭科のこと」「学校と教育を考える」「指紋捺捺を考える」「キミ子方式で絵を書く」「丸木美術館を訪れる」メニューが豊富すぎて悩んじゃうという声も聞かれました。

「自分らしさをこそ」が今回のフォーラムのメインテーマでした。出合おう。語り合おう、体験しようの合い言葉そのままに、思いをぶつけ、新しいテーマをかかえ込み、そして自分をみつめ自分らしさを基盤に何が出来るかを認めるそんな会だったと思います。

(柴田 栄子)

★国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会に参加する各団体でも、それぞれ家庭科の問題についての取り組みが行われています。今回は大学婦人協会の取り組みに関して情報をいただきました。

## 新しい家庭科を考える

大学婦人協会社会福祉委員長  
新谷 弘子

大学婦人協会では、国連婦人の十年の最終年に当り「その評価と展望」のテーマで、九月二十八・九日の両日、国立婦人教育会館に於て全国セミナーを開催する。

そこでは、国内外での国連婦人の十年の実績を評価し、残された課題は何かを把握することになる。雇用・国籍問題、行動計画に加えて、家庭科教育についての分科会をもち、本協会ならではの特色ある議論が展開されることが期待されている。

紙面の関係上具体的にはふれられないが、私は社会福祉の立場から、新しい家庭科を考え、その視点の一部を申し述べることにする。高齢者や障害をもつ人達を施設で分断して生活させるのではなく一緒に生きる生活基盤を創っていくというのをノーマライゼーションという。弱い立場の人と共に生活できない社会は、もろい社会といえるのであって、

共に生きる社会を支える人を育てることが重要と考える。

本年は日本でも男女雇用平等法が成立した。職場に地域に女性の社会進出は増加するであろう。しかし、女性が社会的責任を果たしていくには、家庭生活を補完するような社会資源(制度や施設)が活用できなくては成り立たないのである。

私達は大家族の中で家庭内の問題(育児・老人・病人・障害をもつ人)などについて対応してきた歴史がある。しかし、現代においては、女性が職場を去ることや、一方的負担を負うことだけでは解決しきれず、また女性の人権問題でもある。

今日の家庭科の教科書の中に母子保健や、育児に関しての取り扱いはある。高年齢者や障害をもつ人達に関すること、共働きの生活方法等は皆無に等しい。

誰しもが個人の立場を尊重し合い、いろいろな生き方が選べ、共に生きていくと云える生活を創り出す人々の連帯感や、心を育てることが大切ではないだろうか。

また家庭生活の中で経済や生活条件・人間関係等で安定を欠く問題に対応する相談機関や施設・制度を理解させたい。生活問題解決のために自分で努力し、制度を使いこなす判断力を持たせる教育は、家庭科教育の一環ではないかと思うのである。

## 国際婦人年日本大会の決議を実現するための

### 連絡会報告

和田 典子

連絡会では、秋の日本大会にむけて諸準備が始まっています。8月1日、27日の会合で次の報告、協議が行なわれました。

#### 一、NGOフォーラム参加者の報告

個人または組織的に参加した左の方々の報告と感想が述べられました。

富永よし子(国際婦人教育振興会)、奥村祥子(婦人有権者同盟)、原田貞(婦人労働研究会)、井上美代(新日本婦人の会)、和田典子(家庭科の男女共修をすすめる会)、斎藤千代(あごら)、安藤はつえ(有職婦人クラブ)、竹内カツ(退職女教師連合会)、武田節子(働く婦人の会)

#### 一、ILO第七一回総会の報告

総会に出席した中立労連(松本)、総評(山野)、同盟(高島)の各氏から、採択された「雇

用における男女の均等な機会及び待遇に関する決議」の内容、問題になった個所について説明をうけました。

#### 一、秋の日本大会準備

●大会名称——「国連婦人の十年日本大会——平等、発展、平和・二〇〇〇年にむけての行動」

#### ●大会プログラムの概略

一〇・〇〇 開場  
一〇・三〇 開会あいさつ

来賓あいさつ(婦人問題企画推進本部長、国連婦人の十年推進議連代表、推進会議座長藤田たき氏)各三分

#### 基調報告

構成劇(10年の足跡を、国際的な視野で多彩に演出)

#### (昼食・休憩)

一二・四〇 問題領域別報告——演出については、多様な方法で、今後工夫する。

#### 決議・宣言、合唱

一五・〇〇 閉会あいさつ

#### デモ行進

●問題領域別討議経過について  
大会にむけて委員会が7月24、25、26日の三日間、五つの領域別に行なわれましたので、

その報告をうけて、8月27日第二回目の委員会でもたれ、9月中旬をめどにまとめ、二〇〇〇年にむけての戦略を打ち出す方針でとりにくんでいます。

領域別小委員会は、政策決定参加、就業、教育・メディア、家庭・福祉、平和・国際協力、の五つで構成し、各団体はすべての領域に参加するように要請されています。運動をさらに発展させようとの意図からです。

「会」は、教育・メディアのほか、家庭・福祉などにも出席していますが、仕事の都合などで思うに任せません。常任委員の和田は教育・メディアに所属し、運営、進行にあたっています。

●資料作成にとりくむ(大羽世話人はか)  
(1) 十年間の活動のまとめ(大会までに、単行本として刊行)

(2) 大会当日配布する資料を作成。

(3) 大会報告集(大会終了後刊行)

#### ●その他

基調報告、決議、宣言などの案文の起草は鍛冶世話人を責任者として、準備するほか、財務委員会では、中村世話人を責任者に、予算(約五〇〇万円)の作成、カンパ活動などによる資金の調達にとりくむことになり、大会の準備がハイピッチですすんでいます。

## 新教育課程の 審議始まる！

新しい教育課程審議会が九月十日に発足しました。家庭科のこれからのあり方がいよいよ本格的に審議されるわけです。

今度の教課審の主なテーマは「社会の変化への対応」「基礎・基本の徹底」などですが、男女平等の推進という社会の大きな動き、生活に関する知識・技術という基本的なことについて十分考えてほしいものです。

教課審の発足に先立ち、七月、文部大臣あてに要望書を送って次のようなことを求めました。

### 日本大会に参加しましょう

日本大会の日時、場所、内容は19ページの通り。

参加人数を団体ごとにとめますので参加ご希望の方は十月中に事務局あてにはがきでご連絡ください。入場は無料、資料は有料の予定。(急拠参加できるようになった方は当日会場に用意される入場整理券によってお入りください)

●女性委員を半数に近づけること ●多数の現場教員を委員とすること ●女子差別撤廃条約の精神を生かすこと ●父母、現場教員の意見を尊重すること ●婦人団体、民間教育団体の意見を尊重すること

けれども現場代表は相変らず少数の校長さんたち、女性は今までより多いとはいえ、二十七人中四人だけでした。

委員は次の通り。

青木 生子 日本女子大学長(上代国文学)  
秋山 和夫 岡山大学教育学部長(幼児教育)  
東 洋 東大教育学部長(教育方法学)  
江副 浩正 株式会社リクルート社長  
沖原 豊 広島大学長(比較教育学)  
奥田 真丈 横浜国大教授(教育課程学)  
小田島哲哉 都立戸山高校長(全高長教育財政対策委員長)  
木村尚三郎 東大教授(歴史学)  
栗原 一登 日本児童演劇協会会長  
幸田 三郎 恵泉女学園短大教授(教育社会学、教育経営学)  
佐藤 愛子 作家  
鈴木誠太郎 世田谷区立深沢中学校長(全日中会長)  
田村 哲夫 渋谷女子高校理事長、校長(日本私立中高連常任理事)

西原 春夫 早大総長(公法)  
縫田 暉子 NHK解説委員  
畑中 良輔 芸大名誉教授  
広中和歌子 評論家

福井 謙一 京都工芸繊維大学長(工業化学)  
船木 哲 宮崎県教委教育長  
古橋広之進 日大教授、日本水泳連盟会長  
松田 岩男 中京大教授(体育心理学)  
村井 実 慶大教授(教育学史)  
森 隆夫 お茶の水女子大文教育学部部長(教育社会学、教育行政学)

諸井 虔 秩父セメント社長  
諸沢 正道 国立科学博物館長  
柳下 昭夫 文京区立誠之小学校長(全小連会長)

山口 薫 芸大教授(特殊教育)

この二十七人の総括委員が大局的論議を行ったあと、委員を四十八人にふやし、臨時委員も含めて課題別委員会(六年制中等学校、社会科教育など)、分科審議会(幼稚園と小学校を扱う初等教育、中学校、高校の三つ)での審議がすすめられます。そして六十三年六月に最終答申、新指導要領は告示が六十四年(高校は六十五年)、全面実施が小学校六十七年、中学校六十八年、高校では六十九年から学年進行という予定です。(梶谷 典子)